

<質疑応答>

【D 委員】

先ほど、新たなチャレンジで利用者ニーズへの取り組みのひとつに自然素材の活用ということで、グリーンウッド体験を進めるというのがありました。

いわゆる生木は時間が経つと、割れたりねじれたり色々します。なので、木って時間が経つと他の金属製品と比べて曲がったりして使いづらくなっていうのはかえって、逆の教育効果を与える可能性もあります。こういうウッドワーキングっていうのは、生木は水分が多いから加工はしやすいですけど、できたものを使っていくことで、本当の木の良さを県民の皆さんに知ってもらわなきゃいけないので、多少ねじれがあっても日常使いするときに支障がないような品目をよく考えてやらないと、逆効果になる可能性があります。

【C 委員】

賃金規程の時間外手当のところ、割増賃金 125%を支給するとなっていますが、今 60 時間超の時間外は 50%割増になっています。その辺の実施状況はどうかっていますか。

【申請団体】

実際は 5 割増しで払っています。

【A 委員】

残業や深夜勤務は実態として結構あるのですか。

【申請団体】

ほとんどないです。

経費の削減ということもあり、極力職員と協力しあって、また、場所が場所ですので、日没時間が早くなったりすることも考えられますので、極力残業はさせないような形で業務を終えるようにしています。ただ、年間で地域との連携の一環でいろいろ仕事する場合は若干早めに来て準備などというところで、残業の取扱になるところは年間でも少々あるところですが、それ以外の夜の残業というのは基本的にない形になります。

【B 委員】

今の規程整備に関連してなんですけど、提出されている育児休業規程は令和 5 年のものですけど、この 4 月からも法令改正があったと思いますけど、その辺は対応済みでしょうか。

【申請団体】

対応しています。

【B委員】

2つあって、1つは学校教育プログラムを会社として実施されているということですが、神奈川県内の学校とのコンタクト先を随分持たれていると思いますが、21世紀の森にその方たちに遠足とか見学会で来てもらって活動するような、この21世紀の森にそれをどう活用できるか或いは何か計画を考えているのであれば、お伺いできればと思います。もう1つが、夕日の滝と洒水の滝が大変有名な神奈川県の滝で、21世紀の森からは道は繋がってないと思いますが、ハイキングコースとしてそこにご案内するような企画をされるのか、何らかの形で両方の滝と21世紀の森を体験していただくプログラムなのか、どのような形ですぐ近くにある地域の資源を活用されるのかを、もう少し詳しく教えてください。

【申請団体】

野外教育プログラムに関しては、21世紀の森では大体22校程度、4700人程度の利用あり、機材を運動広場に設置をしていて、そこを利用してもらっていますが、それだけで帰るのであれば、21世紀の森としては価値が見いだせない部分もあるので、そういう生徒に木工や自然散策をプラスアルファで体験していただくことを考えています。

また、支援系の生徒さんもいるので、そういった方たちは活動ができないというところもあるので、木工で木を触ってみようかとか、展示室を見るようなことは今もやっているところ です。

滝の方の関係で言いますと、確かに夕日の滝と洒水の滝は、21世紀の森を介してもどうやっても歩くと6時間くらいかかってしまうので、両方行こうというのは難しいと考えています。例えば夕日の滝は、足柄峠、矢倉岳、万葉公園、地藏堂などありますので、そういう場所と、1つにしていく。洒水の滝は、山北町の方の大野山とかつぶらの公園、こちらの方は歩いていけるので、4、5時間としてやれると考えています。それはそれで分離で見えています。本来は一緒に見られたらいいという思いはありますが、やはり時間的な問題がありますので、それぞれのスポットで計画を立てるという風に考えています。

【B委員】

4、5時間で行けるとなると学校の遠足にも活用できる可能性はありますか。

【申請団体】

21世紀の森はバスも停められるので、21世紀の森をスタートとして、子供たちが行ける範囲内ではあると思っています。矢倉岳に登るにしても、4時間から5時間で往復することは可能かなと考えています。

【B委員】

私は都会育ちなので、もし自分が子ども或いは見学者だったら、木工教室とか室内でやることよりも、自然の中で木を見たり、そこで解説をしてもらうようなサービスが受けられるととてもいいなと思いました。都会の人にとっては、室内で何かするよりは、そういうことに価値があると思います。東京都にも奥多摩の方に21世紀の森のような場所がありまして、その近くに見学会に行ったことがあり、そこで林業をやっている人から説明を受ける機会があって、とても勉強になったので、都会の人には子供でも大人でもそういうのがうけると思います。なので、自然の知識を伝えるようなプログラムは、お金もそんなにかけらず、そういうことが出来る方がいっぱいいらっしゃると思うので、そういうのをやられたらいいかなと思います。そして、それを学校に持っていったらおそらく学校でもやりたいと思うんじゃないかと思います。総合学習で何をやっていいかわからない学校もいっぱいあると思うので、せっかくこの100校という窓口をもってらっしゃるので、遠足などの形でプログラムを組むと利用者数が拡大して、学校で1回行くと家族でも行こうかとなるかもしれないですし、今のベースを拡大できる手段があるといいかなと利用者としての意見です。

【申請団体】

その辺については、指定管理施設を4つやっけてまして、ちょっと21世紀の森から離れていて、どちらかというと夕日の滝に近いところなんですけど、丸太の森という南足柄市の施設があります。そこは樹齢50年、60年のスギヒノキの木がたくさんあり、キャンプ場も備えていますし、その隣に県の施設もありますので、宿泊できる体験とか、日帰り体験とか、木を見て体験するなど、会社を挙げて総合的にそれぞれの施設を、相乗効果ができるように企画を各年度で出そうとはしています。

どちらかという、木工の目玉としては、ものづくり体験とかに力入れようとしていますけど、都会の方に体験してもらうようなものをやっけていきたいと思っています。

【B委員】

東京都のところではヒノキの端切れを使っけていて、糸鋸でやるとヒノキの香りがしたので、そういう良い香りがする木とか、そういうところも同じ木工体験でも体験価値があがると思います。

また、たき火というか薪ストーブを初めて焚いたときに、割と新しい半年ぐらいしか寝かせてない木を焚こうとしたら全然火がつかなくて、1年2年と経つと自然とつくようになるので、生木って燃えないっていう体験は都会の子には非常に面白いと思います。

キャンプで流木でやると、表面が濡れても、中が乾いているから燃えますよね。そういうのが、都会の子には新鮮だと思います。

【申請団体】

丸太の森では火起こし体験プログラムもやっていますので、他の施設と合わせたコースで体験するということも可能だと思います。

【B委員】

皆さんでアイデアを出すと、今あるものでお金もかけずに、気づきを与えるという効果の高いプログラムを考えられると思います。

(その後、財政的な内容についても質疑応答を行った。)

【D委員】

災害が非常に多発しているので、3日分の備蓄品を備えるための費用は自主的に出すのか、県からの指定管理料の中で出すのか、また、今の時点ではどこに備蓄する予定なのか教えてください。

【申請団体】

今の時点では、費用につきましては、指定管理料の中から出すことで収支計画を立てさせていただいております。

備蓄に関しましては、事務室の後ろに救護室という部屋がございまして、現状としてはそこに今後備蓄をしていくという形になると思っておりますが、3日分という量になると、それなりの量でスペース的にはかなり狭くなってきますので、備蓄する備品庫のような場所については、所管課と相談しながら、どんな形で管理・運営していくのかはこれからと考えております。

【D委員】

災害対応について、社内ネットワークで、重機で速やかにということだったんですけど、乾燥区域で降雨が少ない時期が長くなると、例えば21世紀の森の周りの野焼きから飛び火することがなくはないと思います。そういった時に、山林火災は初期消火が非常に大事になる。と言いながら、山の中に水道線があるわけではないので、そういう時にジェットシューターっていう20Lくらい水を入れる水枕の親方みたいなものがあるんですけど、そういった配備はお考えでしょうか。もし考えてなければ、そういった器具もあるので、初期消火の対応としてのジェットシューターの配備みたいのを検討していただきたい。

【申請団体】

前向きに検討させていただきたいと思います。確かに場所が広大で107ヘクタールほどありますので、我々が巡視できる範疇というのもなかなか厳しいところがありますので、今ご助言いただいた中で、初期消火がいち早くできるのであれば、所管課と相談して検討する

のが最善なのかなと思います。

【A委員】

地元等に強固なネットワークを持ってらっしゃる事業者さんだと思うんですけども、地域事業者を優先して、委託を発注しているという風な報告を受けていてそれはそれで、施設の目的にも適うことだと思うんですが、一方で経済性や公平性も気になるところでして、どういう風に委託業者を選定しているのかを改めてご説明いただければと思います。

【申請団体】

地元企業や支社が近くにある会社も交えてお声がけさせていただき、複数社から見積をいただいて、見積合わせ等をしています。

【C委員】

何社ぐらいからとっていますか

【申請団体】

3社ぐらいですかね。多いときは5社くらい。そこまで大きいものもないので、2、3社くらいです。

【A委員】

20年やっている実績っていうのはございますので、そういうネットワークも大事だっていうのはよくわかりますが、こういう時代ですので、オープンに県内に間口を広げていくっていうことも、必要だという風に思いますのでその辺もご検討ください。

あともう1つは老朽化が課題だということで、遊具がないっていうアンケート結果もあって、限られた予算で非常に難しいという風には思っているんですが、その辺に関して県の所管課とどういう風なやりとりをしているのか。端的に言えばもっと予算をつけてくれという働きかけをするのか、そういう県とのやりとりに対する考え方について教えてください。

【申請団体】

これまでもお願いベースではしています。ただ、それ以上の予算をつけるとか、そういう話にはなっていません。例えば、もう少しこういう風にしたいっている案を出させていただいて、それに対する検討をいただいているような段階です。

【A委員】

それは年に何回かそういう場があつてとかですか。それとも日常的に風通し良くやりと

りしているような感じなのでしょうか。

【申請団体】

主に月1回行っているモニタリングで、担当者でお話をさせていただいております。早急に対応しなければいけないものについては、日々その段階で、担当者とお話をさせていただいているのが実態です。

モニタリングでは、月別の報告をさせていただきながら、その先々の計画だったりとか、今現場で抱えている課題だったりをお管課の担当さんにはご連絡させていただいております。県側も費用と時間がかかる調整で苦慮されているところは、お互いの話し合う中で理解をしながら、その期間の間、我々が指定管理者として何ができますかといったようなところを掘り下げて、ここまでの維持管理をお願いします、といったところは、しっかりとご指示いただきますので、そういった部分では良い関係性と捉えております。

【A委員】

与えられた業務だけをやればいいというお考えでなくて、そこから見えてきたものを県に対して発信して、連携しながら、いい施設にしていこうという、その考えがあるという風に受け止めます。

【B委員】

私たちが見学に行ったときに、散策路が通れない状態だったんですけど、それは今は通れるようになったんですか。

【申請団体】

まだです。

【B委員】

もう1つ質問ですが、広報活動が委託業務の中に入っていて、色々ホームページなどを使って温浴施設とリンクをとるとかが書いてあるんですけど、ある意味これって待ちですよ。来てくれたら見れるっていう状態なんですけど、そこに積極的に見に来てくれるような仕掛けって何かされてますか。或いは、こういうことをやったら反響が多かったっていう経験というか、良いラーニングみたいなのがあれば教えてください。

【申請団体】

それに関しては、Webで広報をしていただけるサイトに登録して、自主事業の開催日などを登録すると、それが発信されるようなものなどを活用させていただいております。

【B委員】

それは無料ですか

【申請団体】

無料です。

【B委員】

有料にはなるけれども利用者数の多いサイトを使うなど、認知を高めるようなことは考えられていますか。

【申請団体】

指定管理の施設の1つで有料サイトを使うと、会社の関連のところに入ってくれますので、例えば丸太の森のアクセスが多くなると、ふれあいの村や21世紀の森のアクセスが多くなるという風な流れになります。ただ、過去実績からいうと、21世紀の森にお金をかけて効果を上げるっていうのはなかなか予算的に厳しいと思います。例えば何万人呼ぼうとすると、年間200万300万という費用がかかってきます。うちの、指定管理或いは野外教育を含めたどこかの有料サイトを使うことによって、そこから繋がってくるといった効果を上げるほうが予算的にはその程度かなと思います。例えば、21世紀の森で宿泊ができるとか、キャンプができるとか、火を使えるとかあれば、もっと広いPRができると思うのですが、なかなかそういう点では制限があるので、うちの他の施設と相乗的にお客さんを呼べればいいかなと思って、お金は別のところで使って、そこから派生するような形を考えています。

【A委員】

障害者雇用企業への発注という特に予定されていないようですが、その辺は今後の予定などはあるんですか。

【申請団体】

委託先も含めて、今のところは考えていません。発注するものによって合うものがあれば、当然のようにお願いする場面はでてくると思います。おそらく掃除だったりはおそらくしたらはまってくるのかもしれないと思います。定期清掃は今のところ、自社でやっているんですけども、そういう場面で出てくるかもしれないと思います。

【A委員】

県西地区にもそういう事業所も結構あると思いますので、そういったところも可能性を探っていただければと思います。